

荻原新八郎 著

## 呼吸理学療法学

(B 5 判 278 頁 4,635 円 (税込) 1990 年 医学書院 刊)

松村 秩

(東京都立医療技術短期大学)

著者は英国, カナダで肺理学療法  
法の経験を積み、帰国後わが国  
の肺理学療法の遅れていた現場の  
中で、時には悲憤慷慨しながら、  
また時にはこの現場を改善するた  
めにいろいろと孤軍奮闘したであ  
ろう。

筆者自身は老人の在宅ケアをす  
るなかで、在宅の要介護老人の肺  
の換気機能が低下していることを  
痛感している。呼吸器疾患の診断  
がなくても、長い期間にわたる不  
活発な生活をベッド上で続けている  
老人、あるいは屋内に閉じこも  
っている老人などのなかで、換  
気能力の低下が原因して離床生活  
や屋外への外出ができない者が多  
いことを知っている。

からだや手足の不自由は注目さ  
れやすいが、心・肺機能の廃用性  
低下は見逃がされてしまいがちで  
ある。

わが国の運動療法を中心とする  
理学療法は偏っているし、片手落  
ちのところがある。一般に技術よ  
りも理論がちになったり、技術そ  
のもののディテールが見逃がされ  
て、どうしても正確さにおいて欠  
けている。

著者も指摘しているように、理

学療法の真髄は手によるアートの  
部分である。教育のしかたも技術  
よりも理論が先行しがちになった  
りしているあたりは考え直すこと  
が大事である。

本書は肺理学療法学と称せられ  
ているごとく、呼吸に関する理学  
療法のサイエンスとアートの部分  
が丁度うまく統合されている。そ  
のための文章表現も今までの医学  
書といささか異なっているところに  
本書の特色がある。したがって、  
読むにあたって箇条書きに近いよ  
うになっていたりしているので、  
馴れない者には読みづらいものが  
あるかも知れない。

しかしながら、テクニックを具  
体的にディテールにわたって記載  
するには、長い段落の続く文章で  
はうまく伝えることはできない。

臨床的に長い経験をもつ著者で  
ないと、このように技術のアートの  
部分について微に入り、細にわた  
って記載することはとてもでき  
ないであろうと思う。

大変な力作であり、この種の本  
としてはわが国で初めて刊行され  
たものである。

目次は7章からなっており、す  
べての部門をカバーしており、呼

吸器の評価、第2章の呼吸理学療  
法の手技は肺理学療法の基礎的な  
部分として重要である。しかし、  
本書を理解するためには、予め呼  
吸器の臨床解剖と生理や、病態生  
理学の知識をある程度もっていな  
いと理解しにくいのではないかと  
思う。したがって、学生が最初か  
ら本書を教科書として学ぶには多  
少難しいかも知れない。

しかしながら、実際に臨床の場  
で肺理学療法をやっている理学療  
法士にとっては、本書は技術の面  
において大変に細かなディテール  
にわたって注意がゆきとどいて説  
明してあるので、正確な肺理学療  
法を身につける者にとっては、本  
邦でこれ以上の本はないといっ  
てよい。

第3章の術前、術後の理学療法  
ではほとんどの手術に関して説明  
してあるが、本邦ではこれらのう  
ちの一部しか行われていない。治  
療期間の短縮、合併症の予防の上  
でも早く普及されねばならない。  
4章の呼吸器疾患のいくつか、5  
章の閉塞性換気障害、6章の拘束  
性換気障害もこれから普及しな  
ければならない技術がかなりある。  
最後の集中監視治療は理学療法士  
の関わりが一番少ない部門ではな  
いかと思う。今後の一層の進出が  
期待される部門である。

本書が医学書院という権威ある  
出版社から発行されたことにつ  
いて、同僚として筆者もこの上ない  
喜びとするものである。